閃乱
焔
塗闘帳
片耳豚
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

焔さんの淫闘
強制発情の段

淫術って正直
ならってもちょっと……
ってとこあるよね
でも焔さん捕まるの巻

時間の感覚が曖昧になっている
思考は靄がかかったように働かないのに
肉体の感覚だけは時間とともに鋭敏になっていく
自分の体だというのに己の意志で制御することができない——
一瞬の油断——敵の人数を見誤ったのも不手際だった……

気分はどうだ女忍者？
ふざ……けるな！いいわけが……——あるか！
隨分と蟲達にも嬲かれたものだ……
その口ぶりからするとだいぶ仕上がってきたようだな
この程度のことで——私が……口を……割ると思っているのかっ？
わるさ……

そのザマでは直に割る……相手が女であればいくらでも手はある

くそっ――こんな術とも言えないようなじゅ――つっっっ――

そぉら……少し気を抜いただけで表情が蕩けてきたぞ

ひっ――！くっ――っっっっっっ！

口は立派だが実行が伴わなければ滑稽なだけだぞ

こん――なっ！こん……な蟲ごときでぇ――

淫忍の生み出した抉り蟲だぞ？「くノ一」を束ねて「女」にするそのためだけの蟲術だ

早めに喋ったほうが身のためだと思うがな……
お前が女である以上我々の責めからは逃れられん……
自決も許さん……「狗」の奴が封心のの法をかけたからな……
改めて宣言しておくが……「お前」は絶対に逃れられん
では始めるか……せいぜい後悔せんようにな
カラカラカラ
ガラ
ガラ
ガラ

あの時――油断がなかったといえば嘘になる

何人殺られた？

五人ダナァ
派手ニヤラレタ

デェ……ドウスルゥ？

情報を聞き出す
躾の準備をしろ

仲間ニ勘付カレルト
厄介ジャネェカ？

大したものだ……
さすがは蛇女の忍びだな

蟲をつかって追い込んでやれば
よかろう……
どうせ助けを呼ぶどころ
ではなくなる

下衆共めっ――
コレハコレハ。隨分ト見事ナ肉付キ
使い甲斐があるだろうさっさと用意してこい
ジャア。トビッキリ新鮮ナ奴ヲ張リ切ッテ使イマスカイ？
お前は前置きが長過ぎる……クライアントにも急かされているんだモタモタしている時間はないと言っとるんだ
短期ダナェ。オ前ハジャアコレ！御対面ダナァ！
ク～ジ～リ～ム～シ～

サァテ。オ立会イ
コイツは抉り虫
女好キダガ。ナカナカ
イイ奴ダ
効果ノ程ハ……
マァ体験シテモラウトスルカ
ソォレ行ケ
ボト
ボト
ボト
奴らが持ちだしたのは
グロテスクな蟲だった
ビチ
ビチ
ビチ
ビチ
ビチ
ビチ

淫術のたぐいであることは
奴らの口ぶりからわかっていた
対処法も身体制御で
どうにかなる――
そんな甘い考えを
していたツケは――
すぐさま感覚を
伴う後悔としてやってきた
思い出すだけでも――
おぞましいあの感覚……

傷っといたと……
言わざるを得なかった

胸と股間に張り付かれた
次の瞬間――

あらゆる感覚を快感に
書き換えられたような
――激感

抵抗の意志と覚悟が
一枚一枚剥がされていく悪寒

一瞬それが何か
理解することができなかった

絡め取られた――
この時始めて私は自分の
現状を正確に理解した

そして――奴らは席を外し
私を放置した――

なん――でえっ
どうしとこんな――にい
はひいっ！
感じ――おかひい
なんれぇぇぇぇ！
私のカラダなのにいいい！
あふあ♡
蟲責めから解放されるやいなや
今度は直接的な陵辱に切り替わる――
かろうじて理性は保っていたが
その時の私は――もう
肉体的には完全に屈服していた
そしてこの男の責めもまた
私の予想を大きく裏切った

素面ならいざしらず
今のお前では この快感に
抗うのは無理だ
強制的に発情させられた上
……まぁ淫術に長けていない
女忍者ではどちらにせよ
カモネギだがな
分かるか?
お前は最も感じる極点を
調子を外して
嬲られているんだぞ
来ると分かっているものなら
ある程度耐えられるだろうが
俺はその勘所を尽く
外せる……
分かるかつまり……
表面的な刺激に
集中させておいて……
一気に抉る
効果の程は……
まぁ聞くまでもないか

一つ悪い知らせがあるお前のことをクライアントに知らせたのだが
先方がお前を気に入られたらしく雌奴隷として可愛がりたいらしい
だからどのみちお前にはしばらく
躾を受け続けてもらうことになった
記録はきちんととっておけクライアントがご所望だ
アイヨー
気ノ毒ニネェ。マァ。ドコマデ頑張レルカ観モノデハアルネェ

サー笑ッテ笑ッテ陽気ニ。イコウ

やめ――ろおっ……とる……とるなぁ――

それから先の時間は
ただ只管の淫獄だった

中で精液を吐き出されるたび
自分が壊れていくような快感

こちらの懇願を完全に無視し
ただ一方的に快楽を
与えられ続けた

その時にはすでに
私の中から脱出の二文字は
抜け落ちていた――

無抵抗のまま自分の
穴を思うさま蹂躙されていく

そして――

あぁ♥なんでしょうこれ♥
ひぃっ♥やだなんか♥
あ♥
ヤ♥もっとヤらないで♥
イクのもっとやめないで♥
びく♥
びゅ
ガク
ギュ
ギュ
あ♥
あ♥
ヤ♥
ーー♥
びゅ
びゅる
びゅる
びく♥
ーー♥
あぁ♥あぁ♥あぁ♥あぁ♥

長イ。ツキアイ――ニナルカモシレナイネェ
面の男のそんな呟きを遠くに私の意識は闇に落ちた――
そしてその日から――私を堕とすための淫獄が確かに開始された
ゴプ
コポ
ゴポ
ゴポ
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡

気がつけば焔さん
MAX可愛い
でも
うわー時間がなくて
これまでです
地味に続き描いてきいたいです

寒衣屋

奥付
発行 /片耳豚
印刷 /コムフレックス
発行日 /2011.12.31
連絡 /katamimibuta@yahoo.co.jp

閃乱焔塗闘帳

片耳豚
ぷれぜんつ